令和４年度　静岡県立袋井特別支援学校第１回　学校運営協議会　議事録

１ 日 時　　令和４年６月 29 日（水） 10：00～12:00
２ 会 場　　静岡県立袋井特別支援学校 会議室
３ 参加者　　計 15 人
（１） 学校運営協議会委員　６人
　　委員Ａ、委員Ｂ、委員Ｃ、委員Ｄ、委員Ｅ、委員Ｆ
（２）学校関係者　９人
　校長、副校長、教頭、事務長、小学部主事、高等部主事、教務課長、支援連携課長、
　コミュニティ・スクールディレクター：CS
４ 内容
（１） 学校運営協議会委員任命状　伝達　（校長）

（２） 校長挨拶　（校長）

運営協議会の運営については義務教育では進んできている。特支では今年度から実施。今年度からスタートに当たって、地域の人に色々と支えてもらいたい。地域の人とじっくりと話をして、学校のこと、地域のことを作っていきたい。今日の主な内容としては、学校運営と「地域とともにある学校」に向けて地域との仕組みづくりについて話をしていきたい。

今年度が始まり、２か月が経った。児童生徒 337 人が在籍している。学部ごとは、小学部 152 人、中学部 64 人、高等部 121 人。高等部の入学生のうち 60 人ぐらいは市町の中学校より入ってくる。通学生だけでなく、訪問教育の子どもも５人いる。

居住地域としては、磐田市在住の児童生徒が一番多い。続いて袋井市。いろいろな市町に住んでいるが、学校所在地の袋井を地域として取り組んでいく。

コロナで何もできないのでは、教育活動が滞ってしまうので、今年度は様々なことに取り組んでいく。光る子まつりや作業製品など見てもらい、学校について知って欲しい。今年一年の大まかな教育活動の流れを知ってもらいたい。

（３） 自己紹介

委員Ｃ：地域コミュニティーセンター館長として５年ぐらい経つ。今年度は地域コーディネーターとなった。地域のために考えていきたい。

委員Ａ：令和３年に地域自治会連合会の会長になって２年目。これも何かの縁だと思っている。尽力したい。

委員Ｂ：昨年度よりこの会に参加させてもらっている。平成元年生まれの息子もこの学校にお世話になった。今もサッカーでつながっている。力になれることがあればする。

委員Ｄ：就学前の支援、０～18 歳の子ども・保護者の困り感に対しての支援を行っている。
今年度も支援学校と連携を取っていきたい。

委員Ｅ：意見を言うというより自分が勉強させてもらいたい。

委員Ｆ：PTA 活動も地域の人と協力して行っていきたい。

（４） 会長・副会長選出 （校長）

校長：学校運営協議会委員の方の中から会長副会長を選出させていただいている。会長は、Ａ様 副会長はＢ様の選出を考えている。Ａ様は、地域の連合会会長を行い、高南小学校の学校運営協議会委員も務めており他校の学校運営協議会制度についてよく知っている。Ｂ様は、磐田市手をつなぐ育成会の常任理事、昨年度の本校評議員、そして本校卒業生の保護者様でもあり、お二人の方が適任と考え選出をした。

副校長：会長Ａ様、副会長をＢ様にお願いしたいと思う。賛同の方は拍手でお願いする。

委員：全員拍手で承認。

（５） 会長挨拶 （委員Ａ）

大役を任され緊張している。

袋井特別支援学校は１９９０年創立、32 年目だが、自分自身が今までどんな形で関わってきたかを考えてみると、何も関わってきていない。学校は近づいていけないような閉じられたイメージである。

しかし、数年前から作品の展示や作業製品の頒布会などが行われ、少しずつほぐれてきた。地元との関り、連合会の役割も踏まえながら、手探りではあるが探っていきたい。皆さんと率直な意見を交わして、どうしていきたいかを話していきたい。このような役目は初めてであり、戸惑うことも多いが、皆さんのお力を借りながらやっていきたい。

（６） 授業見学

２グループに分かれて授業参観。

５ 協議 （司会：会長）

（１）令和４年度学校経営計画について

ア 説明（校長）

教員、看護師、スクールバス介助員も含め教職員 199 人でスタートした。全員が教育目標を共有できるように分かりやすく示している。

＊以下、経営計画に沿って説明

イ　質疑など

委員Ａ：安全安心のことで、防災訓練の取り組みについて知りたい。

校長：年間４回実施し、地震、火災、地震からの火災、４回目は日時を知らせず行っている。引き渡し訓練も行っている。高南地区の防災訓練にも代表者が参加させてもらっている。また、危機管理研修は講師を招いて実施し、職員の意識を高めている。

委員Ａ：肢体不自由では、支援が必要な子どもが多いが、河川の決壊や電源が止まるなどの時、弱い子どもへの対策はできているのか。

校長：太陽光発電があり、医療的ケアの子は使える場所に集まる。また、バッテリーの予備を常に持ってきてもらうようにしている。学校に迎えに来れるまでの時間も把握している。近隣のハザードマップからは、小笠沢川の決壊と学校近くのがけの崩壊の危険がある。いざというときに、どうやって保護者に迎えに来てもらうか、引き渡し訓練などで意識を高めている。

委員Ａ：地域の住民の防災への意識の違いがあり、大丈夫かと感じる。特別支援学校は一次避難所になっている。自治会の防災の方とつながっておいてくれると、いざといときはよいのでは。

委員Ｃ：特別支援学校で地震が起こるのは大変なこと。想像がつかないが、イマジネーション力をつけることが経営計画にあった「アクションカード」の作成につながっている。災害が起こった時の想像力をつけていくという点では、学校は地域より進んでいるので、地域の人が学ばしてもらいたい。

校長：浜松特別支援学校では、避難訓練を一緒に行っていた。

ＣＳ：掛川特別支援学校でもコロナ前は、教員が地域の防災訓練に参加していた。

校長：学校の避難訓練に地域の方が参観するのもいいのでは。

委員Ｂ：災害の際に太陽光発電だけでなく蓄電などはあるのか。また、袋井市との連携が進んでいると聞いたが、どのように進んでいるのか、今後どのように進んでいくのか。

校長：蓄電池もある。何日間も持つわけではないが、保護者に引き渡す間は大丈夫。発電機もある。これらを使ってどれくらいの間電力がもつかも計算してある。
袋井市との連携については、市教委からの申し入れがベースだが、本校にもセンター的機能の役割があり、地域の小中と研修などでのやり取りは大切。磐田市なども要請があれば行く。夏休みに本校職員の講師として派遣もある。

委員Ｂ：磐田市には伝えていくのか。市に確認していく必要があるのでは。

委員Ａ：特別支援学校は県立であるが、磐田市と袋井市とのつながりについても確認は必要なのでは。

委員Ｄ：学校経営計画の成果目標に 100%が多いのが気になる。どうとらえればよいのか。実績を考えて目標を考えたときに 100％が妥当なのか。逆に 100％でないところがあるが、理由はあるのか。医ケアに関する項目は 100％でもいいのではないか。命に関わるのでは。

校長：医ケアに関する項目について、100％は担任、70％は担任でない人が該当する。昨年度は 50％ぐらいであったので、それよりは上げた。袋井市との連携に関する項目について、コンサルタントは部主事だけでなく、今年度は、学年主任も行くため、学校への助言として校長、教頭へも助言ができるのか、と考えると、50％と低めにしている。その他の項目は、去年のアンケート結果を踏まえて成果目標を設定した。教員経験６年未満の職員が４割であり、100％にするのは難しい。次年度にどうやって生かすか考えている。100％については考えていく。

委員Ｄ：「子ども主体の授業」について、普通の学校以上に個別の指導が大事。普通の学校以上に工夫しているのを見て安心した、教育のすごさを感じた。これからも頑張ってもらいたい。ＯＪＴについて、伝承していくことは大切。先輩の方々の意見を聞いて、実践してもらいたい。ヒヤリハットは、出れば出るほど安全に対する意識が高いことになる。多く吸い上げることが大事。ヒヤリハットがどんどん出てくる風潮がよい。ノーマライゼーション、障害者と共に生活できるために、地域との連携は必要。

委員Ｆ：子どもが小学部から在籍しているので、色々な取り組みを普通に感じていたが、改めて知ることができてよかった。一人一人防災バックを準備するのは、防災に対して意識が高い学校であると思った。交換が大変ではあるが、災害に備えて対策をしてくれていて嬉しい。

地域の学校との交流ができるが、ハードルが高いと感じることがある。低学年のときはよいが、中学部になると地域の方との交流もハードルが高い。気軽に交流できる場があるとよい。繋がっていけるとよい。

支援連携課長：今年度、中学部は７人の生徒が交流籍校交流を行う予定。

委員Ａ：学校経営計画の承認可否の採決。承認される方は挙手を願う。

全員委員：挙手

委員Ａ：承認された。今年度は我々もこの学校経営計画に基づいて今後の取組を考えていく。

（２）地域に知ってもらう活動、地域と共に取り組める活動について

委員Ａ：地域との連携に意味があるのでは。磐田市、袋井市、諸団体とどう関わるか。連携にもいろいろな形がある。日頃感じていることを忌憚なく発表してもらいたい。

現状及び今後について、御意見をいただきたい。

ＣＳ：＊作品交流について説明

スタートとして美術作品、作業製品の展示をしてもらっている。きぼう館、あえるもん展示スペース。今後磐田市のアイプラザ、袋井駅も考えている。小５児童が生活単元学習の一環できぼう館やあえるもんを訪問している。

支援連携課長：＊南の丘学園との普段着交流について説明

委員Ａ：支援学校の取り組みへの質問、御意見などはあるか。

委員Ｃ：きぼう館の展示スペースは、今のままでは狭いので広いところが欲しいと考えている。どのように広げるか検討途中。子ども達が展示物を持ってきてくれるのは大変いいこと。

委員Ａ：あえるもんは、食事処ではなく、いろいろなことができ、人と出会える場所。高齢者が多いが、音楽を聞いたり話をしたりしている。その中で飲食にも派生した。食材は地元の方が提供してくれる。また覗いてもらえると嬉しい。展示スペースを確保していて、絵画、小物を置くスペースもあるので、地域の高齢者に理解が深まるのでは。

校長：作品を届ける、礼状を書く、校外を歩くなど学習の一環として組みやすい。また、それが行いやすい距離感である。

委員Ｄ：展示スペースは袋井市役所も考えてもいいのでは。可能ではないか。

委員Ｅ：同年代の子ども同士で触れ合うことが大事。昔は自然にできたが、今は学校が別であるので難しい。花壇に花を一緒に植えるなど一緒に活動できるとよい。

委員Ｂ：あえるもんさんの実績はすばらしい。よい交流実績を PR し、発信してもらいたい。袋井でやっている連携活動を広めてもらいたい。

委員Ａ：あえるもんがこんなにスムーズにできると思わなかった。構想が大きいとなかなかできないので、できることから始めようと手探りでできた。継承をどうしていくかが課題。

（３）その他教育活動等への提言

校長：こういう活動やったらどうか、という案はないか。

委員Ａ：美化運動を相互に行うのはどうか。５月と秋のおまつり前に行っている。

地域をきれいにするという点でやりとりができれば。きぼう館でも月１回、有志が集まって草刈りを行っている。

委員Ｃ：３年ぐらい行っている。１５人ぐらいで好きな時間に好きなだけ行っている。

校長：小学部の子どもと一緒に草取りなどはできそうと思う。

委員Ｃ：発信していくのもよいのでは。できる可能性もあるのでは。

委員Ａ：御意見ありがたい。今年度は学校を知ってもらい、何か地域の方と取り組めることはないかと模索しながら行っていく一年にしたいと思っている。今後の取組については、地域コーディネーター、学校ディレクターを中心に行ってほしいと思う。

6　閉会挨拶（校長）

いろいろと率直なお話を聞くことができた。地域の方には、高等部の通学路時の交通安全指導についても協力していただき、支えてもらっている。地域と共に取り組める活動は、今後、授業の中で、学部の中で、できることから取り入れていく。

7　連絡事項　（副校長）

第２回　学校運営協議会日程（10 月 25 日）